

京都に戻り1年経って思うこと

弁護士 野々山 宏



1. 国民生活センター理事長としての行政職務を終え、京都に戻って弁護士業務を再開してから、間もなく1年となります。

事業者による不当な手数料の返還請求や、別居や離婚に伴う子との面接交流請求、不必要・不当な逮捕などの各事件において、依頼者の皆さんと怒りや悲しみを共有しながら、状況の変化に応じて対処をしていく緊張感と、意図した成果を獲得した時の達成感が、弁護士の醍醐味であることを改めて実感しています。受任事件において、紛争相手を説得して早期の解決ができたり、当初は異なる見解を表明していた裁判官と議論し有利な判断を得たり、検察官とのやりとりの結果釈放を実現するなど、良い結果が出て、依頼者の皆さんの喜びをじかに感じられることは大きな喜びです。自分の原点や活力の源泉が、紛争の予防や解決の現場にあることを、この1年で再確認しています。弁護士業務を中断していたから得られるこの新鮮な実感を力に、これからも、業務や立法・政策に関する取り組みを続けていきます。

2. もう一つ再認識しているのが京都の文化都市としての価値の高さです。以前は当たり前の存在で、十分には見えなかった京都の文化の奥深さを強く感じています。東京なら1つの企画展の目玉となるような展示物が、今は自分の生活エリアに普通に展示されていることに驚かされています。

京都には千年を超える歴史のもとに、まちの至る所に個性的な博物館・美術館があります。「京都ミュージアム探訪」(京都新聞出版センター)によればその数203施設に及びます。当事務所から歩いて5分のところに、東京駅を設計した辰野金吾設計の旧日本銀行京都支店を別館とする「京都文化博物館」があり、その常設展示室の一角に、いつも国宝がさりげなく企画展示してあります。最近では、東寺に伝来した古文書を千年以上にわたって保管・整理してきた「東寺百合文書」のうち、足利尊氏ほかの足利将軍や織田信長が作成した文書など国宝10点以上が展示され、「天下布武」の信長の印影の実物を見ることができます。その前は、近衛文麿が創設した「陽明文庫」から、国宝の藤原道長の日記である「御堂関白記」でした。これらの展示は大きく報道されず、まさにさりげなく置いてあり、展示室はほとんど私の貸し切り状態でした。

また、伝統産業の老舗が店舗の一角に設けた博物館にも貴重な文化財が展示してあり、その多くは無料です。当事務所から歩いて5分のところにある「千總

ギャラリー」では、1555年創業の京友禅の老舗・千總が収集した美術品や古文書を店舗の2階にスペースを設けて展示しています。友禅の意匠を依頼していたことから円山応挙、今尾景年など日本画家の作品が充実しています。残念ながら、平成26年4月に閉館となりましたが、平安神宮近くの創業350年の漆器の老舗・象彦の店舗2階にある「象彦漆美術館」には、歴代当主が職人の手本とするために集めた、江戸期からのすばらしい漆工芸品が展示してありました。予約が必要ですが、1843年創業の美術工芸織物の川島織物も、織物に関する収集品16万点を所蔵、展示する「織物文化館」を開設しています。

さらには、京都で活躍した芸術家自身が設立したり、仕事場を美術館などとした、堂本印象美術館、河井寛次郎記念館、近藤雄三記念館、橋本閑雪記念館、櫻谷文庫(旧木島櫻谷家住宅)もまちなかの文化財として一見する高い価値があります。

京都を出るまでは、余りに当たり前に京都にあるものなので、その価値を十分認識してこなかったきらいがありました。こんな贅沢な文化空間にいるのですから、できるだけ時間を作って鑑賞しています。また、文化都市として京都がさらに発展するためには、これらまちに溶け込んでいる文化財の「さりげない」存在を、発信する存在に変えることが必要であると感じているところです。

3. この1年、所属する京都堀川ライオンズクラブの創設40周年の会長を務めました。しばらくできなかった京都での地域貢献に微力を注ごうとの思いでした。堀川や堀川通の早朝清掃、堀川での「京の七夕」「堀川桜祭り」の実施、京都ミニバスケットボールのライオンズ杯、市内の中学生の吹奏楽を支援するワークショップやジュニアコンサートの開催など、環境美化と青少年育成の活動にメンバーとともに取り組みました。異業種の皆さんとの交流は、狭くなりがちな視野を広げ、人間力を成長させる場となっています。

4. 平成26年6月から、日弁連の消費者問題対策委員会の委員長に就任しています。日本の消費者問題の解決における日弁連の役割は大きくなっています。消費者を取り巻く環境は情報化、グローバル化が進み、取り組みへのスピードも求められています。日本全体の消費者問題の解決に向けて、これまでの経験を活かして取り組んでいるところです。

これからの1年も、様々な業務に全力であたりますので、ご支援ご鞭撻をよろしく願いいたします。